

平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金  
(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 (健やか次世代育成総合研究事業))  
「健やかな親子関係を確立するためのプログラムの開発と有効性の評価に  
関する研究 (H29-健やか-一般-004)」 分担研究報告書

子育て支援機関・自治体・医療機関が連携した、切れ目のない支援モデルの  
効果・検証  
長野県における愛の鞭ゼロ作戦の実施による効果・検証 (予報)

分担研究者

小泉典章 (長野県精神保健福祉センター)

研究協力者

半場有希子 (長野県精神保健福祉センター)

柏崎 由 (長野県精神保健福祉センター)

中澤文子 (長野県母子保健推進センター)

### 研究要旨

虐待の疑いによる通報が全国で、年々急増している。これからは児童虐待対応のみならず、予防を考えなければならない。厚生労働省研究班では虐待予防に向けて作成した初の啓発用資料「子どもを健やかに育むために～愛の鞭ゼロ作戦」を作成、活用を呼び掛けている。この啓発活動が児童虐待減少のポピュレーションアプローチになりうるかの検証が必要である。

保護者向けリーフレット「愛の鞭ゼロ作戦」の活用による行動変容について、長野県で初のプレリミナリーな検証をしたので、報告する。方法は、市町村の新生児訪問 (あるいは、こんにちは赤ちゃん事業) でリーフレット「愛の鞭ゼロ作戦」の配布をした。その後、4 か月児健診時の健やか親子 21 の虐待に関する必須問診項目の匿名化されたデータを H28 年度時の同項目のデータと比較したところ、減少傾向であった。県内の近隣の同規模の市町村の同時期の比較データを調べたところ、前年とほとんど変わらなかった。これらは、介入の効果を示唆する。

「愛の鞭ゼロ作戦」のリーフレットを用い、体罰の否定から、虐待の防止を目指しているが、今後も、データを積み重ねて、効果を検証していきたい。

### A. 研究目的

厚生労働省研究班が虐待予防に向け

作成した、保護者向けリーフレット  
「子どもを健やかに育むために～愛

の鞭ゼロ作戦～」の活用による行動変容について、プレリミナリーな検証をする。

## B. 研究方法

H29年度に市町村の新生児訪問（あるいは、こんにちは赤ちゃん事業）でリーフレット「子どもを健やかに育むために～愛の鞭ゼロ作戦～」を配布した。その後、4か月児健康診査時の健やか親子21の虐待に関する必須問診項目の匿名化されたデータをH28年度時の同項目のデータと比較した。

## C. 研究結果

健やか親子21（第2次）の虐待についての必須問診項目「この数か月の間に、ご家庭で『感情的な言葉で怒鳴った』ことがありましたか」の回答がプレリミナリーではあるが、減少傾向であった。

県内の近隣の同規模の市町村の同時期の比較データを調べたところ、前年とほとんどかわりなかった。これらは、介入の効果を示唆する。

## D. 考察

児童虐待を疑い、児童相談所へ通告するケースは増加の一途をたどっている。今年度、「子どもを健やかに育むために～愛の鞭ゼロ作戦～」のリーフレットは厚生労働科学研究班が虐待予防に向けに作成した初めての啓発用資料である。

これを活用することによって、育児初期から、産婦と「愛の鞭ゼロ作戦」のリーフレットをもとに、子育てについて話し合うことができる。それとともに母親が子育て初期に信

頼できる相談者の存在を知ることができる。

虐待傾向が潜在している時期でも、SOSを相談者に出しやすくなるのではないだろうか。

## E. 結論

「愛の鞭ゼロ作戦」のリーフレットを用い、体罰の否定から、虐待の防止を目指している。今後、データを積み重ねて、効果を検証していきたい。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表（学会発表）

小泉典章、柏崎 由、中澤文子、春原美枝、鹿田加奈、立花良之；長野県における愛の鞭ゼロ作戦の展開。第23回日本子ども虐待防止学会。2017年12月3日（千葉市）

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

## I. 今後の展望

2016年には虐待疑いが全国で5.4万人と急増している。これからは児童虐待対応のみならず予防を考えなければならない。厚生労働省研究班では虐待予防に向けて作成した「子どもを健やかに育むために～愛の鞭ゼロ作戦」を作成、活用を呼び掛け

ている。実際この啓発活動が児童虐待におけるポピュレーションアプローチになりうるかの検証が必要である。